

日本周産期・新生児医学会 学術集会 (第44回周産期学シンポジウム開催概要)

プログラム・抄録

〈会長〉 内山 温 (東海大学医学部総合診療学系小児科学)

〈会期〉 2026年1月16日(金), 17日(土)

〈会場〉 パシフィコ横浜 アネックスホール

神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1

〈オンデマンド配信〉

①日本専門医機構単位付与対象期間: 2026年1月22日(木) 12:00~1月29日(木) 12:00

②視聴のみの期間: 2026年1月29日(木) 12:01~2月28日(土) 12:00

※小児科領域講習の単位付与は、「現地参加」のみ

〈参加費〉

会員および医療従事者 : 12,000円

看護師, 保健師および助産師 : 5,000円

初期研修医, 大学生, 専門学校生 : 無料

※参加費は全て不課税です。

※登録された参加費は, 原則として返金できません。

※ホームページ上からオンライン参加登録をお願いいたします。

〈日程〉

1月16日(金)

13:00~18:30 特別企画展示会, 企業展示会

14:20~14:25 開会の挨拶

14:30~18:30 プレコングレス

14:30~15:30 オープニングセミナー, ハンズオンセミナー

15:40~18:30 未来へつなげる周産期学

1月17日(土)

8:00~9:00 モーニングセミナー

9:00~16:30 特別企画展示会, 企業展示会

9:10~9:15 周産期学シンポジウム運営委員会委員長挨拶

9:15~12:05 シンポジウム午前の部

12:15~13:15 ランチョンセミナー

14:10~17:00 シンポジウム午後の部

17:00~17:05 閉会の挨拶

第44回周産期学シンポジウム開催にあたって

2026年1月16日(金)～17日(土)にかけて、パシフィコ横浜アネックスホールで第44回周産期学シンポジウムが開催されます。このような機会を与えていただいた周産期学シンポジウム運営委員・幹事および会員の皆様に心より感謝申し上げます。

本シンポジウムのテーマは、『未来へつなげる周産期学 ―子宮内環境と児の Well-being を考える―』です。母児の Well-being の実現は、周産期医療に携わる全ての従事者の願いです。その実現には、出生前からの適切な対処が不可欠です。周産期学の進歩によって、子宮内環境に対する適切な評価や介入が可能となった疾患がある一方で、依然として評価も介入も困難な疾患が存在しています。したがって、本シンポジウムから得られる新たな知見は僅かかも知れません。しかしながら、たとえごく僅かであったとしても、その積み重ねが未来の母児の Well-being の実現につながっていくと確信しています。このような経緯から、本シンポジウムのテーマが決定されました。周産期学シンポジウムが独立して開催されるのは今回が最後になります。その意味で特別な位置付けの学術集会になることから、特別企画も開催します。

初日のプレコングレスは、2つの企業共催セミナーで始まります。1つ目はオープニングセミナーとして、胎児・新生児 MRI 画像の最前線、2つ目は同時並行で LED 光源装置を用いた、全く新しい胃管挿入法についてのハンズオンセミナーです。次に、サブテーマを「未来につなげる周産期学」とした3講演を企画しました。1つ目は練馬光が丘病院の細野茂春先生から新生児蘇生法 2025 へのアップデート、2つ目は特別企画講演として昭和医科大学江東豊洲病院の大槻克文先生から周産期学シンポジウムの歴史、そして最後に、脳科学者(東京大学院総合文化研究科 他)の茂木健一郎先生に基調講演をお願いしております。

2日目の午前・午後のサブテーマはそれぞれ、「未来へつなげる周産期学 ―子宮内環境と児の予後―」および「未来へつなげる周産期学 ―子宮内環境と母児の予後―」と題して、それぞれ5演題を予定しています。これらは全て公募を経て選出された、本シンポジウムのテーマに相応しい演題ばかりです。また、午前・午後の部の開始前に企業共催セミナーも開催されます。どちらも RSV 感染症関連ですが、午前・午後の部のサブテーマに合わせて、モーニングセミナーでは、これからの小児に対する RSV 感染症予防策、ランチオンセミナーでは、RSV 感染症予防戦略としての母子免疫ワクチンについてのセミナーを開催予定です。

プレコングレスでの特別講演に加えて、特別企画展示会「周産期学シンポジウムの軌跡と未来」も開催します。さらに、企業の皆様のご厚意による最先端の医療機器展示会も開催予定です。オンデマンド配信も予定していますが、これらの展示会は現地会場でのみご覧頂くことが可能です。

本シンポジウムが、「未来へつなげる周産期学」について皆様と一緒に考える機会になれば、主催者としてこれほど嬉しいことはありません。

横浜“みなとみらい”の地で、一人でも多くの皆様とお会いできるのを楽しみにしています。

2025年12月吉日

日本周産期・新生児医学会
周産期学シンポジウム 会長
内山 温

(東海大学医学部総合診療学系 小児学・教授)

プログラム

未来へつなげる周産期学 — 子宮内環境と児の Well-being を考える —

会場：パシフィコ横浜 アネックスホール

◆ 開会の挨拶 1月16日（金）14：20～14：25
周産期学シンポジウム会長 内山 温（東海大学医学部総合診療学系 小児科学）

プレ kongress 1月16日（金）14：30～18：30

オープニングセミナー 1月16日（金）14：30～15：30
未来へつなげる周産期学 — 胎児・新生児 MRI の活用 —
座長：柴崎 淳（神奈川県立こども医療センター 新生児科）
演者：丹羽 徹（東海大学医学部 画像診断科）
共催：株式会社フィリップス・ジャパン

ハンズオンセミナー 1月16日（金）14：30～15：30
未来へつなげる周産期学 — 経鼻胃管誤挿入リスク低減への挑戦 —
講師：岡崎 薫（東京都立小児総合医療センター 新生児科）
川村大揮（東海大学医学部総合診療学系 小児科学）
会場：会議室「E25」※事前登録，定員制
共催：株式会社大塚製薬工場

未来へつなげる周産期学 1月16日（金）15：40～18：30

1. High Performance NCPR を実践するために NCPR アルゴリズム 2025 を理解する 15：40～16：40
座長：石本 人士（東海大学医学部専門診療学系 産婦人科学）
演者：細野 茂春（公益社団法人地域医療振興協会 練馬光が丘病院小児科，自治医科大学）
〈産婦人科領域講習：1単位，小児科領域講習：1単位 ※申請中，新生児蘇生法アップデート〉
2. [特別企画講演] 周産期学シンポジウムの歴史 16：50～17：20
座長：金川 武司（国立循環器病研究センター産婦人科，現周産期学シンポジウム運営委員会委員長）
演者：大槻 克文（昭和医科大学江東豊洲病院産婦人科）
3. [基調講演] AI 時代における乳幼児期の安全基地の意味 17：30～18：30
座長：内山 温（東海大学医学部総合診療学系 小児科学）
演者：茂木 健一郎（東京大学大学院総合文化研究科）

モーニングセミナー

1月17日(土) 8:00～9:00

未来へつなげる周産期学—これからの小児に対するRSV感染症予防策2026—

座長：長谷川久弥(東京女子医科大学附属足立医療センター 新生児科)

演者：勝田友博(聖マリアンナ医科大学 小児科学教室)

共催：アストラゼネカ株式会社/サノフィ株式会社

◆ 周産期学シンポジウム運営委員会委員長挨拶

1月17日(土) 9:10～09:15

金川武司(国立循環器病研究センター産婦人科, 周産期学シンポジウム運営委員会委員長)

周産期学シンポジウム午前の部：未来へつなげる周産期学—子宮内環境と児の予後—

1月17日(土) 9:15～12:05

〈産婦人科領域講習：2単位, 小児科領域講習：1単位 ※申請中〉

座長：市塚清健(昭和医科大学横浜市北部病院 産婦人科)

平田克弥(大阪母子医療センター 新生児科)

1. 胎児脳障害予測指標としての分娩時 fetal heart rate variability の利用可能性

真川祥一(三重大学医学部附属病院 産婦人科/臨床研究開発センター)

2. FGR 児における出生時血圧の予測因子の探索

栗原 康(大阪公立大学大学院医学研究科女性生涯医学)

3. 児の予後考えた際に妊娠糖尿病における持続血糖測定は新たな管理法となりうるか

春日義史(慶應義塾大学医学部産婦人科学教室)

4. 尿中タイチンは新生児の子宮内環境及び周産期ストレスを評価可能か?

不破一将(日本大学小児科学系小児科学分野)

5. インプリンティング疾患発症に対して生殖補助医療が与える影響の解明

原 香織(慶應義塾大学医学部小児科/国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部)

ディスカッション

ランチョンセミナー

1月17日(土) 12:15～13:15

未来へつなげる周産期学—RSV感染症の予防戦略～maternal vaccine 接種の実際～

座長：光田信明(大阪母子医療センター)

1. RSV マターナルワクチンに関する基礎知識—よりよい情報提供のために

演者：永松 健(国際医療福祉大学医学部 産婦人科学)

2. 赤ちゃんを守るために、今できること～助産師が伝えるRSウイルス予防～

演者：布施明美(医療法人産育会堀病院, 神奈川県助産師会)

共催：ファイザー株式会社

シンポジウム午後の部：未来へつなげる周産期学 ― 子宮内環境と母児の予後 ―

1月17日（土）14：10～17：00

〈産婦人科領域講習：2単位，小児科領域講習 ※申請中〉

座長：小松玲奈（昭和医科大学江東豊洲病院 産婦人科）

長野伸彦（日本大学医学部附属板橋病院 小児科・新生児科）

1. [関連演題] 出生児を意識した妊娠中の微生物叢の把握と課題

谷垣伸治（杏林大学産科婦人科）

2. 胎盤機能不全による胎児腸管・免疫系プログラミングの分子学的機序に基づく腸管機能障害の予防戦略

市瀬茉里（東京大学 女性診療科・産科）

3. 子宮形態異常と周産期リスク：臍帯付着部位置異常の関与

吉原達哉（山梨大学医学部附属病院 産婦人科）

4. 妊娠 34 週未満の胎児発育不全の周産期管理における sFlt-1/PlGF 比の有用性に関する検討

篠原諭史（山梨県立中央病院 総合周産期母子医療センター 産科）

5. 臍帯動脈血流異常を伴う selective FGR の予後不良関連因子を探る ～胎児治療適応拡大を見据えて～

山本 亮（大阪母子医療センター産科）

ディスカッション

◆ 閉会の挨拶

1月17日（土）17：00～17：05

金川武司（国立循環器病研究センター産婦人科，周産期学シンポジウム運営委員会委員長）

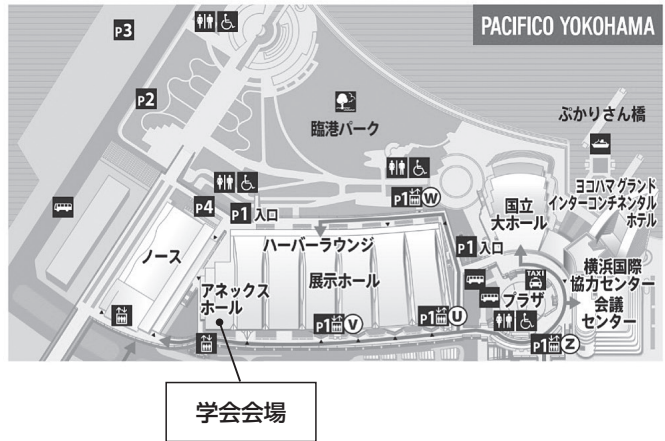
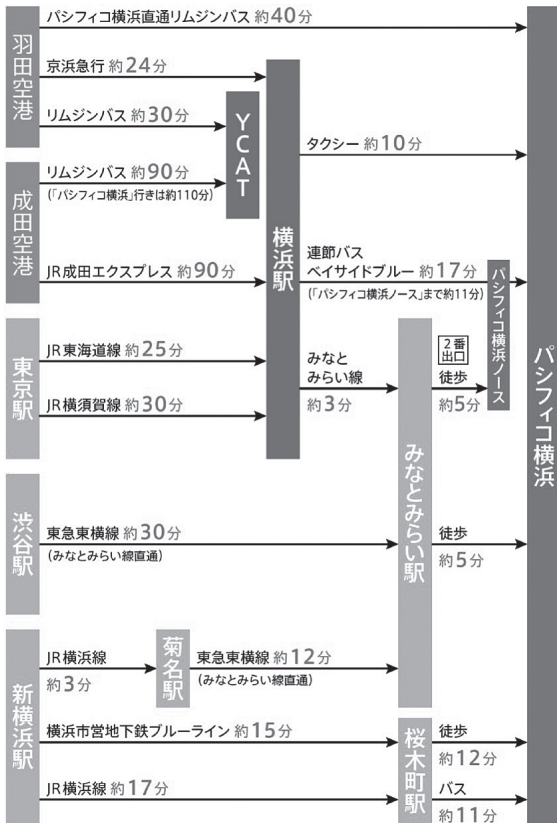
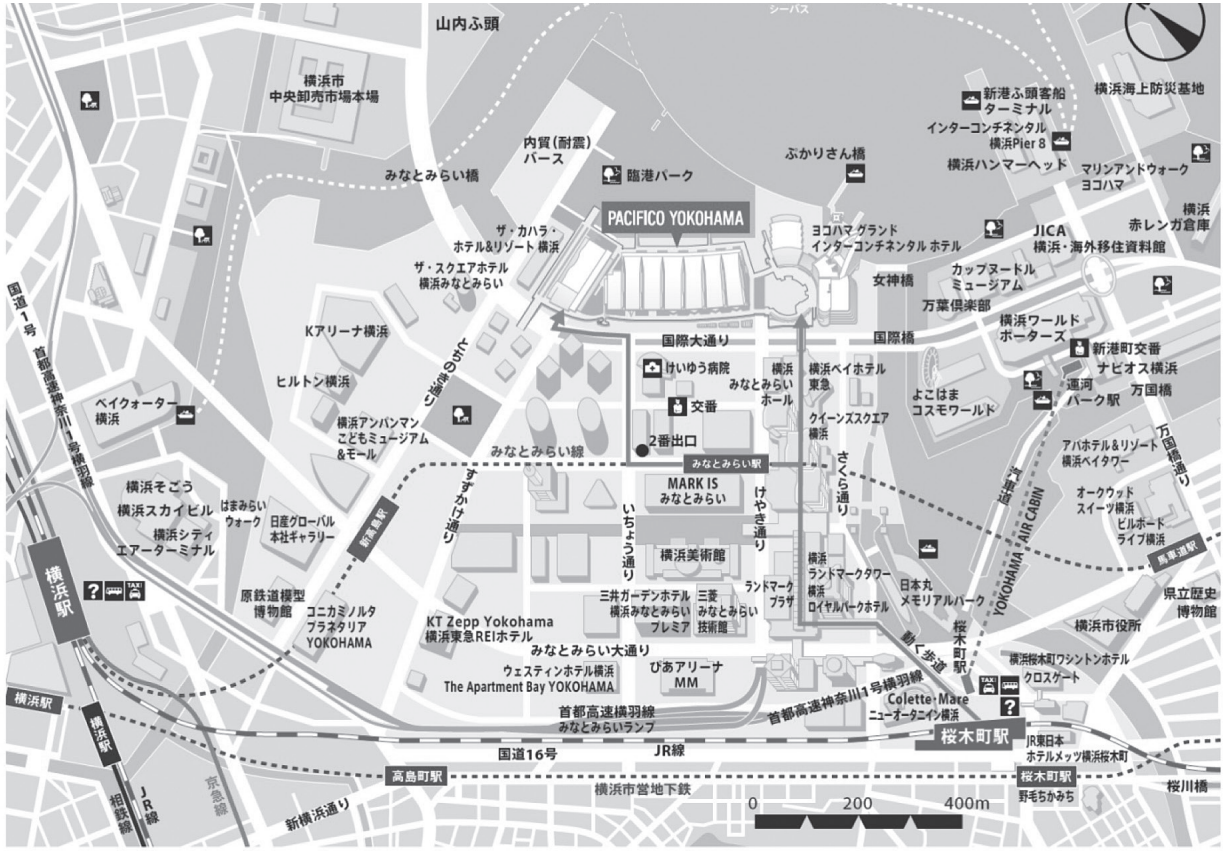
◆ 特別企画 展示会：周産期学シンポジウムの軌跡と未来

1月16日（金）13：00～18：30，1月17日（土）9：00～16：30

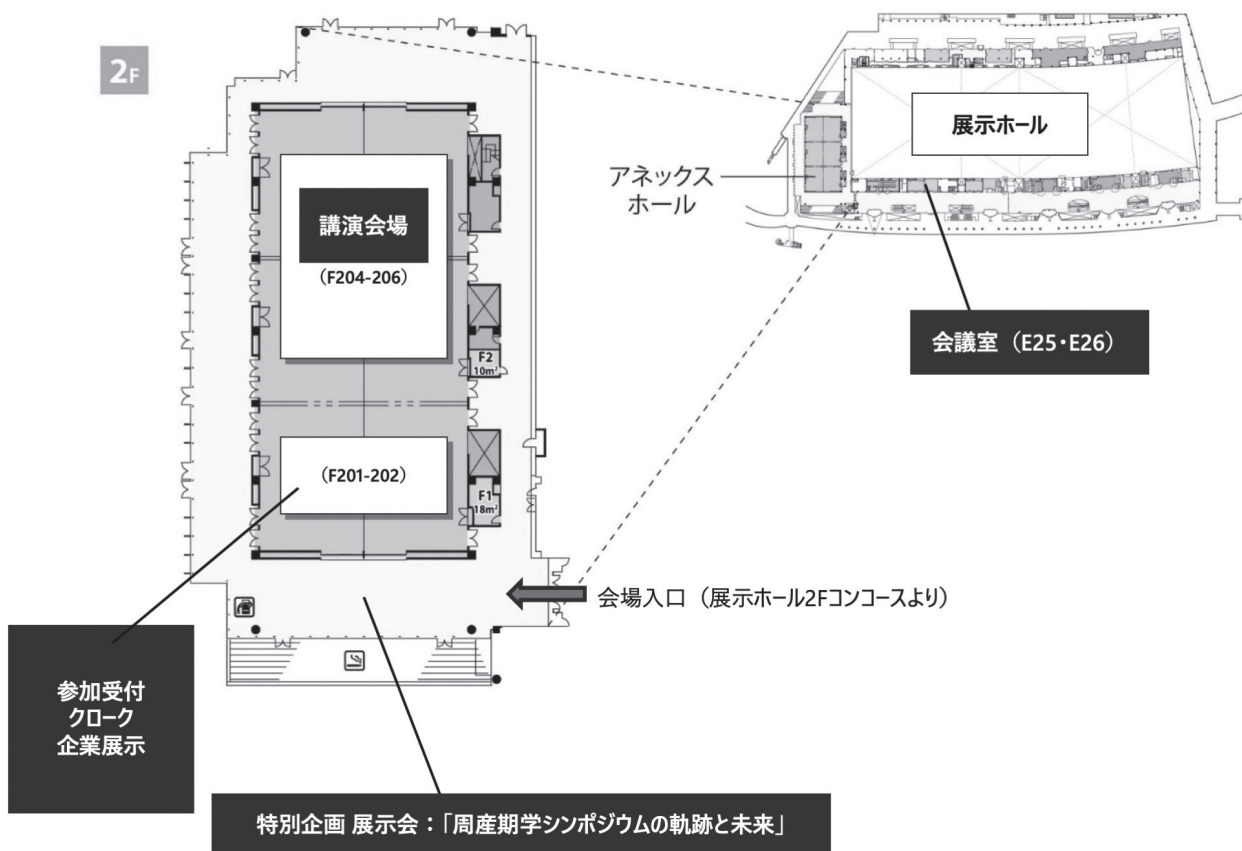
◆ 企業展示会

1月16日（金）13：00～18：30，1月17日（土）9：00～16：30

交通案内図



会場案内図



《専門医制度単位について》

本学会では以下の単位が交付されます。

●日本周産期・新生児医学会（旧制度）

- ①日本周産期・新生児医学会 専門医資格認定単位（10単位）
- ②日本周産期・新生児医学会 専門医資格更新認定単位（10単位）

●日本周産期・新生児医学会（新制度）

※2024年4月以降に研修を開始した専攻医，旧制度で専門医を取得した先生方
出願，更新の際必要となるので，「学会参加証書」を保存してください。

※新制度については次ページをご参照ください

●日本産科婦人科学会

日本専門医機構学術集会参加 [(iv) 学術業績・診療以外の活動実績] 参加3単位

●日本産婦人科医会

日本産婦人科医会研修出席証明（研修単位）

●日本小児科学会学術集会

参加単位 (iv-B) 1単位 ※「現地参加」のみ

●日本専門医機構

・産婦人科領域講習

【1月16日（金）プレコングレス】：受講で1単位

1. 「High Performance NCPR を実践するために NCPR アルゴリズム 2025 を理解する」

【1月17日（土）周産期学シンポジウム】：各受講2単位

午前の部：未来へつなげる周産期学—子宮内環境と児の予後—

午後の部：未来へつなげる周産期学—子宮内環境と母児の予後—

※午前の部，午後の部それぞれ全体で受講単位となります。

・小児科領域講習 ~~（申請中）~~

※申請が通った場合は，「現地参加」でのみ取得可能です。

【1月16日（金）プレコングレス】：受講で1単位

1. 「High Performance NCPR を実践するために NCPR アルゴリズム 2025 を理解する」

【1月17日（土）周産期学シンポジウム】：各受講1単位

午前の部：未来へつなげる周産期学—子宮内環境と児の予後—

午後の部：未来へつなげる周産期学—子宮内環境と母児の予後—

※午前の部，午後の部それぞれ全体で受講単位となります。

申請が認められました。
単位付与は「現地参加」でのみ取得可能です。
(2026年1月13日更新)

■単位取得方法

最新情報は，第44回周産期学シンポジウム HP をご覧ください。

■お問い合わせ先

第44回周産期学シンポジウム運営事務局

株式会社 MA コンベンションコンサルティング

E-mail : symposium44@macc.jp

《新・専門医制度における単位について》

2024年4月1日から、専門医制度規定は新生児領域と母体・胎児領域で個別の規定となっております。専門医受験時と更新時の単位については、領域ごとに下記をご参照ください。

I. 新生児専門医の単位

学会ホームページから下記の手順で「新生児専門医制度規定」を確認すること

専門医制度→新・専門医制度→新生児→新専門医制度の新生児専門医制度規定

https://www.jspnm.jp/uploads/files/specialist/new_speciarist/shinseiji_kisoku_20240713.pdf

1. 新生児専門医資格認定試験

25 ページ第 10 条 学術活動

2. 新生児専門医資格更新認定試験

28 ページ第 10 条 研修単位となる業績

II. 母体・胎児専門医の単位

学会ホームページから下記の手順で「母体・胎児専門医制度規定」を確認すること

専門医制度→新・専門医制度→母体・胎児→新専門医制度の母体・胎児専門医制度規定

https://www.jspnm.jp/uploads/files/specialist/new_speciarist/botaitaiji_kisoku_20240713.pdf

1. 母体・胎児専門医資格認定試験

27 ページ第 10 条 学術活動

2. 母体・胎児専門医資格更新認定試験

30 ページ第 11 条 研修単位となる業績